

別紙様式

組織評価の改善状況報告書

平成27年 3月30日

評価会議議長 殿

創造科学技術大学院長

組織評価に関する実施要項第10に基づき、組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり平成26年度の改善状況を報告します。

要改善事項
【基準3】教授の女性比率が少ない。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
女性教員比率の適正化については全学的に取り組んでいるが、本大学院としては前項の兼担教員の選考基準の見直しを25年度中に行い、女性教員の参画を促す。
改善状況
平成26年度も新たに2名の女性教員が兼担教員として参画することが決定しており、平成26年度に見直した兼担教員の選考基準が機能している。
達成年度（予定を含む）
26年度

要改善事項
【基準3】評価に関しては、多面的な評価が十分ではない。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
社会のニーズにこたえ、社会で通用する人材を育てられるか、社会貢献などを人材育成に活かしているかなど、指導する資質の観点からも教員の評価ができるよう評価方法・項目の見直しを検討する。25年度中に具体的な検討を終え、次年度の昇給、期末手当に関する教員評価等に反映させる。
改善状況
今年度は、全学で定められた基準に則り教員の評価を行い待遇に反映した。27年度には、上記方針により評価方法・項目の見直しを検討し、全学の評価基準に反映させることを要求するか判断する。

達成年度（予定を含む）
引き続き検討する。

要改善事項
【基準5】社会経験のない学生にT型教育の理念が理解されているか、検証が必要。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
T型教育の理念が理解されているか、次回の学生アンケートの項目に盛り込むことを検討する。アンケート結果を解析し、改善に繋げる。
改善状況
今年度から、T型教育の理念についてガイダンスする機会をもうけた。併せて、教員の中でもT型教育の考え方について議論した。また理解度の確認のために、授業アンケートにT型教育に関する項目を加えた。
達成年度（予定を含む）
平成26年度

要改善事項
【基準5】修了生の質の保証（改善による効果はどのように測るのか） 【基準8】教育の質の定量化の方法
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
論文数、論文の質、論文のインパクトファクター、国内・国際会議での発表件数、受賞数、新聞・メディアでの報道・紹介記事などを教育の質の評価データとして利用することを検討する。学生への教育の質の定量化は、企業へのアンケートなどを含めて今後の課題として検討して行く。
改善状況
これまでに蓄積のある論文数、国内・国際会議での発表件数、受賞数、新聞・メディアでの報道・紹介記事などを教育の質の評価データとして利用し、この基準により特に優秀な成績を収めた学生を、前後期2回の大学院長賞で表彰、web上でリアルタイムに紹介し、また学長表彰候補者として推薦することにより質の向上につなげている。教育の質の定量化については、企業へのアンケートを実施して、客観的な評価を求める予定である。
達成年度（予定を含む）
平成27年度

要改善事項
【基準6】就職した人たちの追跡調査を行い、創造科学技術大学院教育の効果、有効性を検証されたい。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

<p>修了生の就職先とその推移から検証を試みる。25年度内に、これまでの年度毎の就職先を産学官に分類した一覧表にまとめてWebサイトで公表すると共に、次年度以降もデータを蓄積して公表する。また現在、創造科学技術大学院の同窓会組織を立ち上げる準備を進めており、修了生の現状を把握および追跡調査を実施する予定である。</p>
<p>改善状況</p>
<p>これまでの年度毎の就職先については、本学webサイトに「大学院修了就職者数・進学者数・主な就職分野等」として公表されている。同窓会組織としては「同窓生の集い」を立ち上げ、修了生への情報の発信と修了生間および修了生-大学院間のコミュニケーションの場として同ホームページを開設した。平成26年度には、指導教員を通じた情報収集に加え、修了生にこのホームページを周知し、これを通じた修了生の現状の把握および追跡調査を実施する計画である。</p>
<p>達成年度（予定を含む）</p>
<p>平成27年度</p>

<p>要改善事項</p>
<p>【基準7】複数教員が指導する体制の具体的な役割分担等が見えない</p>
<p>要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）</p>
<p>副指導教員の役割を明文化し、実質的に機能するよう教員・学生に周知する（25年度）。</p>
<p>改善状況</p>
<p>次の副指導教員の役割をガイダンス資料に記載し周知した。 自専攻の副指導教員：研究課題の選択、研究活動、また論文作成などに際して主指導教員とは別の視点から指導を行い、より幅広い教育の支援を行った。 他専攻の副指導教員：教育研究活動が円滑に行えるように指導あるいは助言を行った。 （上記の役割に加え、両副指導教員は学位事前審査の審査員を務めることが規則で定められている。）</p>
<p>達成年度（予定を含む）</p>
<p>平成26年度</p>

<p>要改善事項</p>
<p>【基準9】事務に、運営、調査、広報などを担当する企画部門が必要。企画や調査資料作成等の業務や教育補助を担当する方がいない。</p>
<p>要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）</p>
<p>事務職員の削減が進む中で部局の事務に新たな部門を担当する職員の配置は困難な状況もあり、財務施設部・総務部・企画部との連携を強めて対応していく。</p>
<p>改善状況</p>
<p>短期で解決することが難しい課題であるが、現在の窮状を継続して本部に訴え、人員増を要求していく。</p>
<p>達成年度（予定を含む）</p>
<p>引き続き検討する。</p>

要改善事項
【基準10】アクセスを分析し、より効果的な情報公開にしていくべきである。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
ホームページのアクセス解析ソフトの導入を検討する（25年度）。ソフトを導入した場合、解析ソフトによる訪問数の把握、アクセスの集中しているページの把握、また、国別のアクセス数の状況を捉えてホームページのコンテンツをよりニーズにあったものに改訂していくことが可能となる。
改善状況
アクセス解析機能により、国別のアクセス数を時期毎に把握し、解析できるようにした。
達成年度（予定を含む）
26年度

要改善事項
【基準10】学外への公表が十分ではない。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
卓越的に活躍している教員をピックアップし、毎年3名程度ずつ取り上げ、研究内容を大学院のweb上で公開している、また、学生や教員の受賞などについても、今後さらに積極的に公表を行っていく。年度毎に発行している教育研究活動報告書の要約や抜粋をホームページで公開することを検討する。
改善状況
本年度、過去7年間の教員・学生の受賞データを取りまとめてWebで公開した。また、平成26年度の教育研究活動報告書より、要約についても別途公表することとした。
達成年度（予定を含む）
平成26年度

要改善事項
【基準11】「さらに高いレベル」とはどのような方向性でのどのような定量的レベルか目標を明確に
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
インパクトファクターや学生による授業評価など数値化できる指標に基づいて目標をたてる。（平成25年度～26年度）
改善状況
インパクトファクターや学生による授業評価など数値化を実施した。
達成年度（予定を含む）
平成26年度